



「ええことも わるいことも 先祖あつての 自分やなく」。この言葉は、ある自営業を営まれているご主人が、今年のお正月にお酒を飲みながら、ふと漏らされた言葉だそうです。奥様は不意に出たその言葉に共感され、思わず手帳に書き留められていたのだそうです。

そしてその言葉は、ある口私のところへも届けられました。しみじみと語られたこの深い心情を表す言葉は、どんなことがご縁となってご主人の口から表出されたのでしょうか。

「良いこと、悪いこと」は、すべて凡夫を生きる私の都合で決めつけている言葉であり、内容ですが、それは、時とともに「すがた」は変容もし、全く逆転する事も決してめずらしいことではありません。「ああ、あの時こうすればよかった、ああすればよかった」。などと思うことも日常茶飯事ですが、すべて仏様からの「おはたらき」によって、今の自分に知らされてくるものなのでしょう。

(ながりょうじょう)

曾我量深の言葉には「人生の苦しみは、すべて如来からの激励である」とありますが、どんなにつらい人生であろうとも仏さまは見捨てることなく、私たちを見守り続けて下さっています。

このご主人にもご先祖（浄土）からの願いが、何かのご縁によって届けられたのでしょうか。「与えられている今の自分をそのまんま喜んで生きていける人生を歩んでいこう」。そう思われたのではないのでしょうか。そしてまた、奥様の心にもご主人の言葉を通して同じ願いが届いたのかもしれない。

「弥陀物は、自然のようをしらせんりょう(料)なり」

森光明

過日、真宗聖典を見ていて、注目する一節が目にとまりました。末燈鈔(P6 O2)に「弥陀仏は自然のようをしらせんりょうなり。この道理をこころえつる後には、この自然のことはつねにさたすべきにあらざるなり」という一説でした。

私の解釈では、みだ仏は自然の働きをしらせようとしておられると理解しました。私は長く家庭菜園に取り組んでおりますが、天地自然の働きに触れて、人知を超えた不可思議に出会うことはたびたび経験してきました。

当初は、作物は自分が作るものと理解してきましたが、年を経るにつれ、自然の働きの不思議さにふれて畏敬の念が深まり、作物は自分が育てるものではなく、自然が育てて下さるもの受け止めるようになりました。

70歳代からは、自然への畏敬の念が深まり、真宗の根本精神である「他力」の思いも深まるようになりました。そこで日々畑に立つときには、合掌して感謝を表すようになりました。

末燈鈔の一節は、理に叶った記述として受け止めています。

森さんの畑で育った「サツマイモ」いただきました。以前から私は作物を育てて下さる自然へのほんのわずかなお手伝いをさせてもらっているだけですと、お話しくださっています。とてもお元気な方で、一宮まで軽トラで作業に出かけられているそうです。ふかし芋、てんぷら、干し芋etc、なんでもござれの秋の味覚を堪能させていただきます。感謝。



9月の学習会は7月に続き、

あまりの暑さに中止となりました。

次に掲載する言葉は、前回の学習会が中止になった折に、皆さんに考えておいてほしい言葉として提示しておいた中の、いくつかです。

この「ことば」はお寺の掲示板などに掲示されたものですが、皆さんにも「ご感想」がいただければと掲載いたしました。

〇おばあちゃんは、何にならたの？

(置き換えてみてください)

小学一年生

〇お寺は私に会いに行くといい

西念寺



〇さよならを言うのがこんなにも辛い相手を持っているなんて、僕はなんて幸せなんだろう。

同朋大学

同窓会『無盡燈』

皆さんのご感想がいただけることを心待ちにいたしております。お寄せいただいたご感想はぜひ掲載させていただければと思っております。(無記名・記名はお尋ねします)

「お話」で聞かせていただけても結構ですので、お会いした折にでもお願いいたします。

「クーちゃん」お寺にやって来て7年が過ぎました。

いまだ元気で毎日を過ごしています。オカメインコの寿命からすれば、ちょうど折り返し地点の、人間ならば中年に相当するオスです。

我が家では放し飼いを基本とし、籠に入れることはほとんどありません。羽なども切らずに自由に飛べるようにしています。洗面所の鏡と電話が大好きで、自分姿を不思議そうに見たり、電話の機能ボタンを押して、漏れ出る音声に耳を傾け遊んでいます。

また、気分の良いときは短い言葉や、リズム感たっぷりの歌を繰り返して歌っています。人間が大好きでパソコンを使っていると、肩の上に乗って、頭を掻いてくれとねだったり、外から車で帰ると、駐車場にも私を呼ぶ声が聞こえてきます。一晩、二晩ぐらいの旅行なら餌と水を与えておけば、放し飼いにしておくこともできる便利なペットでもあります。とても可愛いく、癒しの存在でもあります。

しかし、よくよく考えてみれば、どこまでも私(人間)の都合で飼いつづけてはいますが、最近勝手場の出窓で外を眺めている時間が多くなった様子を見ると、少し複雑な思いにもなってしまうのです。

大空を飛ぶこともなく、友達がいるわけでもなく、この子の運命はこうした生涯だったのでしようか。あと何年生きるかわかりませんが、私が生きている限り、責任をもって育てていかなければと、その重さを痛感させられています。



お知らせ

十日講

十一月十一日(月) 九時半より

多くのご参拝をお願いします。

お寺サロン

十月十七日(木) 廣専寺 一時半〜

二時半

光受寺学習会

十月十九日(土) 二時〜三時半

お気軽にご参加ください。

お待ちしております。

今月の掲示板

楽をしたいと思うと

苦になる。

苦が当たり前と思えば

楽になる。

龍王山妙延寺 掲示板より

人生は「苦娑婆」とも言われますが、確かに生きることはそんな気がします。

しかし、現代は地縁、血縁等様々な縁が希薄になってきており、自分の都合に合わせて煩わしいことは避けて生きることを良しとして生きています。人間として生まれてきたことの当たり前でない事実を喜んでいける人生はここにはあるのでしょうか。